

第 3 期

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略

事業評価報告書（案）

（令和 7 年度事業）

宇 治 市

目 次

1. 創生総合戦略の基本的な考え方	p.1
2. 事業評価	p.1
3. 評価の対象事業	p.1
4. 人口動向分析	p.2
5. 令和7年度 KPI 達成状況 事業評価	p.5
6. 基本目標ごとの事業結果及び評価	p.7
(1)『新たな時代の宇治ブランドの向上』	p.7
①多様な主体と連携した魅力発信	
②豊富な観光資源の魅力の再発見	
③新たな観光資源の創出	
④観光客の受入環境整備	
(2)『希望をかなえる子育て・子育てにやさしいまちづくり』	p.12
①若い世代の就労支援	
②結婚・出産支援	
③子育て環境の充実	
④学校教育の充実と学校環境整備	
⑤家庭・学校・地域の連携・協働促進	
(3)『住み続けたい「ふるさと宇治」の創生』	p.18
①地域コミュニティの活性化	
②多様な主体の共生社会づくり	
③健康づくりの推進	
(4)『活力あふれる産業振興と多様な働く場の創出』	p.22
①市内企業の成長支援	
②事業者間や産学等の交流・連携の強化	
③新たな産業の創出と産業基盤の整備	
④人材確保と勤労者支援	
(5)『未来を拓く都市基盤の整備』	p.27
①地域の活性化につながる整備	
②移動しやすい交通環境の充実	
③文化遺産・景観の保護	
7. 国の地方創生関係交付金を活用した事業（令和7年度事業）	p.31
8. 重要業績評価指標（KPI）目標値修正一覧	p.41

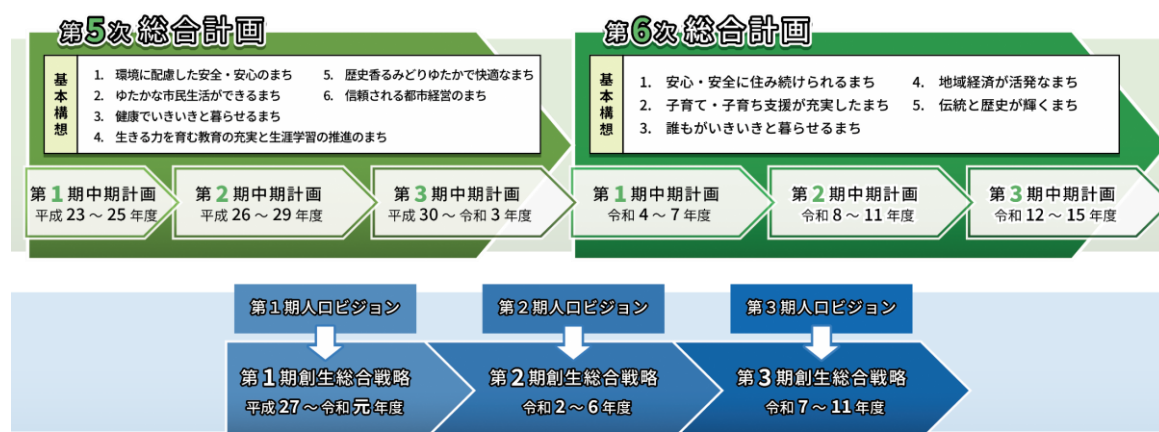
1. 創生総合戦略の基本的な考え方

(1) 創生総合戦略の目的

人口減少及び少子高齢社会への迅速かつ的確な対応と、本市の特色を活かした施策の実施により、持続的に発展するまちを目指すことを目的とする。

(2) 創生総合戦略の位置付け

第3期創生総合戦略の策定にあたっては、国の総合戦略を勘案するとともに、第6次総合計画に定める施策を踏まえた上で、人口ビジョンにおいて示した人口の変化による将来への影響や課題に対応し、持続的に発展するまちを目指し、5つの基本目標を定めている。



2. 事業評価

各基本目標における数値目標や具体的な施策における重要業績評価指標（KPI）の達成度により、取組の効果を毎年度検証し、国の動向や社会経済情勢の変化などに対応した施策・事業を見直すとともに、数値目標やKPIについても見直しを図るなど、PDCAサイクル（※）により、創生総合戦略の実効性を高めている。

また、効果検証に際しては、庁内で評価を行うとともに、その妥当性・客観性を確保するため、産学官金労言士等の有識者及び市民で構成される「宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」で検証を行うこととしている。

（※）PDCAサイクルとは、Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法。

3. 評価の対象事業

第3期創生総合戦略に掲げる5つの基本目標に基づき、令和7年度に実施した事業（令和7年度地方創生推進交付金対象事業を含む）について評価を行った。なお、同交付金は、国において事業効果を高めるため、外部有識者による効果検証を求められている。

4.人口動向分析

第3期宇治市人口ビジョン（以下「人口ビジョン」という。）は、令和2年（2020年）の国勢調査人口を基に、合計特殊出生率や社会増減の目標を踏まえ、推計したものである。

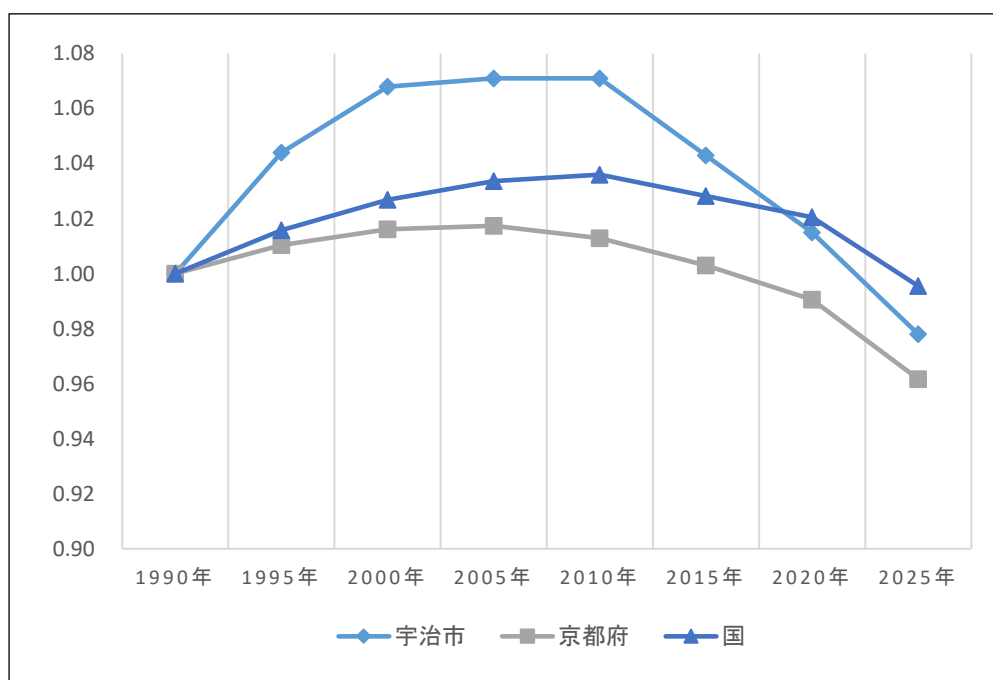
令和7年の人口は国勢調査の速報値173,036人となっており、第3期人口ビジョンを下回る結果となった。

表1 第3期人口ビジョンと国勢調査人口との比較

	2020 R2	2025 R7	2030 R12	...	2070 R52
第3期人口ビジョン(A)	179,630	175,851	171,575	...	131,398
国勢調査人口(※)(B)	179,630	173,036			
B - A	0	▲ 2,815			

※令和7年は速報値

<参考>1990年を1とした場合の人口増減の推移（国勢調査人口）



	1990 H2	1995 H7	2000 H12	2005 H17	2010 H22	2015 H27	2020 R2	2025 R7
宇治市	177,010	184,830	189,112	189,591	189,609	184,678	179,630	173,036
京都府	2,602,460	2,629,592	2,644,391	2,647,660	2,636,092	2,610,353	2,578,087	2,502,747
国	123,611,167	125,570,246	126,925,843	127,767,994	128,057,352	127,094,745	126,146,099	123,049,524

※令和7年は国勢調査の速報値

自然動態（出生－死亡）は出生数の伸び悩みや死亡者数の増加により減少が続いている。社会動態（転入－転出）では、転出超過に変わりはないが、令和6年と比較して減少幅は縮小しており近年においても減少傾向にある。

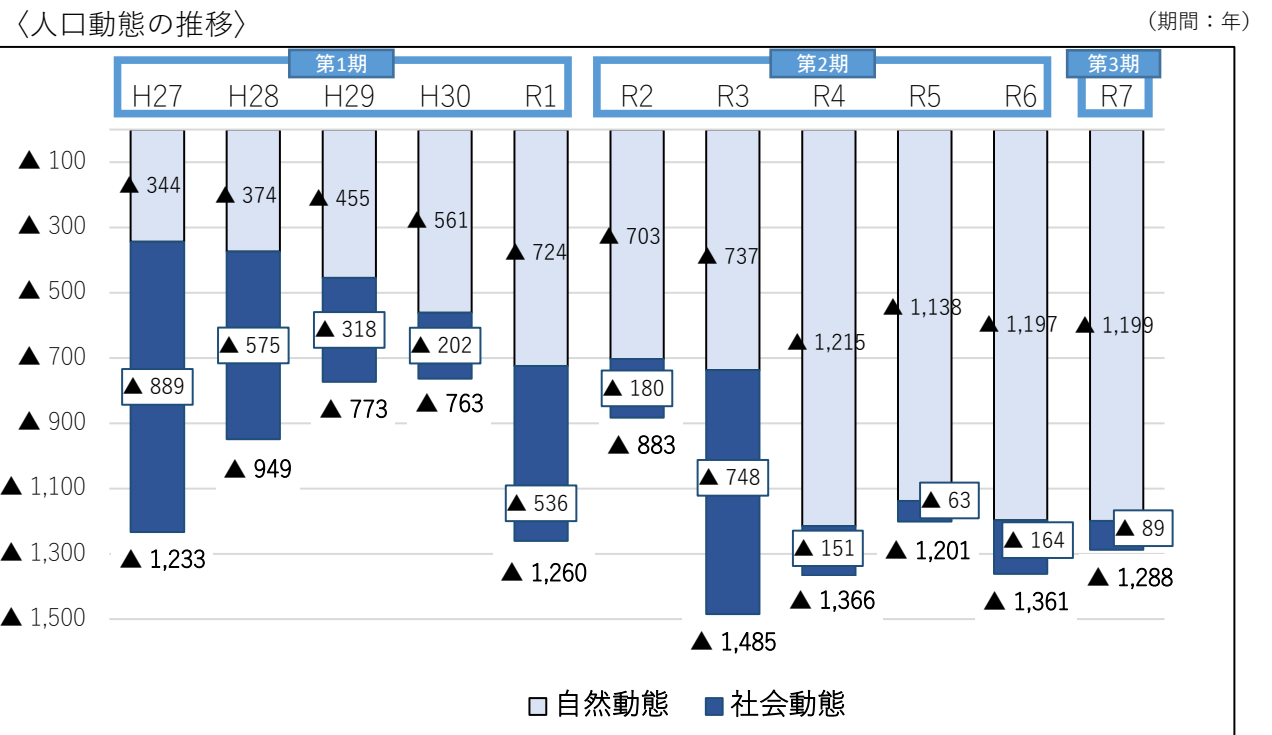


表2 人口動態の推移（内訳）

		2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7
自然動態	出生	1,369	1,296	1,246	1,219	1,038	1,118	1,098	1,007	960	943	957
	死亡	1,713	1,670	1,701	1,780	1,762	1,821	1,835	2,222	2,098	2,140	2,156
社会動態	転入	6,249	6,255	6,476	6,463	6,545	6,280	5,888	6,464	6,457	6,238	6,465
	転出	7,138	6,830	6,794	6,665	7,081	6,460	6,636	6,615	6,520	6,402	6,554

世代別社会動態については、進学・就職、引っ越し等のライフイベントに伴う人口移動が年度の節目に集中するため、こうした移動の傾向を捉える観点から年度集計により記載している。

令和7年度の世代別社会動態では、すべての児童世代（0～17歳）で増加したほか、30～59歳においても増加しており、社会動態が転入超過となった。子育て世代については、結婚や出産、仕事、住居の決定など、様々なタイミングでの転入のきっかけがあることから、引き続き、状況に応じた切れ目のないきめ細やかな支援を進める必要があると考える。一方で、18～29歳の若年層世代は減少しており、進学や就職等で転出超過しているものと推測される。引き続き、人口動態を注視しながら、より効果的な施策が実施できるよう、具体的な施策に定める事業をより充実させる必要がある。

令和7年度												(期間：年度)
世代	0-5歳	6-11歳	12-17歳	18-23歳	24-29歳	30-34歳	35-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	その他(※)	計
人数	150	49	78	▲ 34	▲ 346	50	34	48	36	▲ 3	▲ 6	56
※「その他」は、届出後に年度を跨ぐ日付変更があったものを別集計											児童（0～17歳）の合計	277

(参考)

令和2年度～令和6年度（第2期創生総合戦略計画期間）の合計											
世代	0-5歳	6-11歳	12-17歳	18-23歳	24-29歳	30-34歳	35-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	計
人数	535	95	136	▲ 146	▲ 1,615	100	16	57	▲ 18	▲ 52	▲ 892
児童（0～17歳）の合計											766

(参考) 平成27年度～令和元年度（第1期創生総合戦略計画期間）の合計											
世代	0-5歳	6-11歳	12-17歳	18-23歳	24-29歳	30-34歳	35-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	計
人数	414	▲ 18	69	▲ 883	▲ 1,543	▲ 262	▲ 173	▲ 95	▲ 234	906	▲ 1,819
児童（0～17歳）の合計											465

※入力日基準における集計結果であり年度を跨ぐ日付変更があったものは未反映

※年齢は年度末年齢で集計

5. 令和7年度KPI達成状況 事業評価

(1) 令和7年度KPI達成状況

基本目標の達成に向けて位置付けた具体的施策について、その進捗状況を測るために設定した重要業績評価指標（KPI）では、全体の約2割の指標が目標を達成している状況である。

初年度ということもあり、未達成の指標や今後調査予定の指標が多く存在するものの、5つの基本目標の達成に向けて着実に取組を進めることができた。

基本目標（2）の子育て分野では、「みんなでつくる子育て・子育てにやさしい地域共生社会」を目指し、子育てにやさしいまち実現プロジェクトの全市展開や子育て環境の充実、若い世代の就労支援などの取組を推進することができた。

また、基本目標（4）の産業分野では、宇治市産業戦略の改定を行うとともに、産業支援拠点「うじらぼ」において、市内の起業家支援、異業種交流会、事業承継に向けたセミナーの開催など様々な取組により、市内企業への支援を実施することができた。

一方で、基本目標（3）のまちづくり分野では、全ての項目が未達成となっているが、令和7年度では、社会増減数において、平成22年度以来の転入超過へ転じており、世代別では、児童世代（0～17歳）及び子育て世代（30～59歳）は増加傾向にある。引き続き、宇治に住みたい、住み続けたいまちの実現に向けて、積極的な取組を推進していくことが重要である。

基本目標	数値目標 KPI数	目標達成 (100%)	目標 未達成	今後評価 (※)	目標達成 の割合
	①	②		③	②/①-③
(1) 新たな時代の宇治ブランド力の向上	11	3	8	0	27.3%
(2) 希望をかなえる子育て・子育てにやさしいまちづくり	13	3	3	7	50.0%
(3) 住み続けたい「ふるさと宇治」の創生	10	0	9	1	0.0%
(4) 活力あふれる産業振興と多様な働く場の創出	9	3	4	2	42.9%
(5) 未来を拓く都市基盤の整備	7	0	4	3	0.0%
(1)～(5) 合計	50	9	28	13	24.3%

※今後評価については、各計画における調査時期が後年度となっている指標

（２）令和７年度事業評価

第３期創生総合戦略の初年度となる令和７年度は、基本目標に基づき各種事業を実施した。

具体的には、令和７年４月から半年にわたり開催された大阪・関西万博では、宇治茶・宇治田楽・観光・産業など宇治市の魅力を世界中の方に発信し、「新たな時代の宇治ブランド力の向上」「活力あふれる産業振興と多様な働く場の創出」に寄与することができた。また、子育てにやさしいまち実現プロジェクトでは、これまで中宇治・小倉・木幡黄檗エリアで実施してきたが、令和７年度は全市に展開するとともに、木幡御蔵山エリアにおいて地域資源を活用した様々な取組により、地域や社会で支えあう子育て・子育てにやさしいまちづくりを推進することができた。さらに、小中一貫教育の推進のため宇治西小倉学園の整備、栄養バランスの取れた完全給食を中学校でも開始すべく学校給食センターの整備を実施し、令和８年度からの開校・開始に向け取組を進めることができた。そして、最上位計画である第６次総合計画第２期中期計画の策定を踏まえ、宇治市産業戦略や観光振興計画などの改定を行い、持続可能な発展に向けて、本創生総合戦略の指標（KPI等）について時点修正を行った。

各施策に連動するKPIの達成状況を見ると、初年度において、約２割の指標を達成している。今後はさらに、宇治市の特色を活かした取組を一層進め、宇治の魅力を国内外に発信することにより宇治への愛着の醸成や定住・移住を含めた関係人口の増加につなげるとともに、多様な主体が連携・協働できる地域活動の基盤づくりを支援する必要がある。

出生率については、全国的にも低下傾向にあり、宇治市においても人口減少傾向が続いている現状は厳しく受け止める必要がある。一方で、人口動向における社会動態では、年単位で見ると転出超過であるが、年度で見ると令和７年度は平成22年度以来、15年度ぶりに転入超過に転じることができた。世代別で見ると18～29歳、60歳以上では転出超過となっている一方で、0～17歳の児童世代及び30～59歳の親世代が増加に転じ転入超過となるなど、５つの基本目標に基づき、社会情勢に応じた柔軟な施策を展開する中で、子育て世帯を中心に変化が見られた。

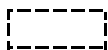
今後も、本市の特色を活かした子育て施策や定住施策、愛着の醸成に向けた取組を進めるなど、「住みたい・住み続けたい・子どもを産み育てたい」と思えるまちづくりに一層注力していく必要がある。

6. 基本目標ごとの事業結果及び評価



①当初目標値を達成したため、目標値を上方修正したもの
※当初目標値を達成した時点の実績値を太字で表記

一覧表はP41



②関連計画の改定や状況の変化に応じて、目標値等を修正したもの

一覧表はP42

※目標達成したKPIは指標名および達成時の実績値を下線且つ太字で示している

(1) 『新たな時代の宇治ブランド力の向上』

(基本的方向)

POSTコロナ時代においても、「宇治茶」「源氏物語」をはじめとした歴史や文化などの伝統的な観光資源を活用し、宇治ブランドの魅力発信を行うとともに、新たな観光資源の創出や多様な主体との連携による広域的な情報発信・誘客促進に取り組むことで、本市への興味・関心につなげ、観光客をはじめとする交流人口の増加を図る。

また、実際に本市を訪れるだけでなく、多様な関わり方ができる仕組みを構築し、本市と継続的に関わる関係人口の増加につなげるとともに、宇治に住みたい思いを醸成し、転入者の増加につなげ、人口減少に歯止めをかけることを目指す。

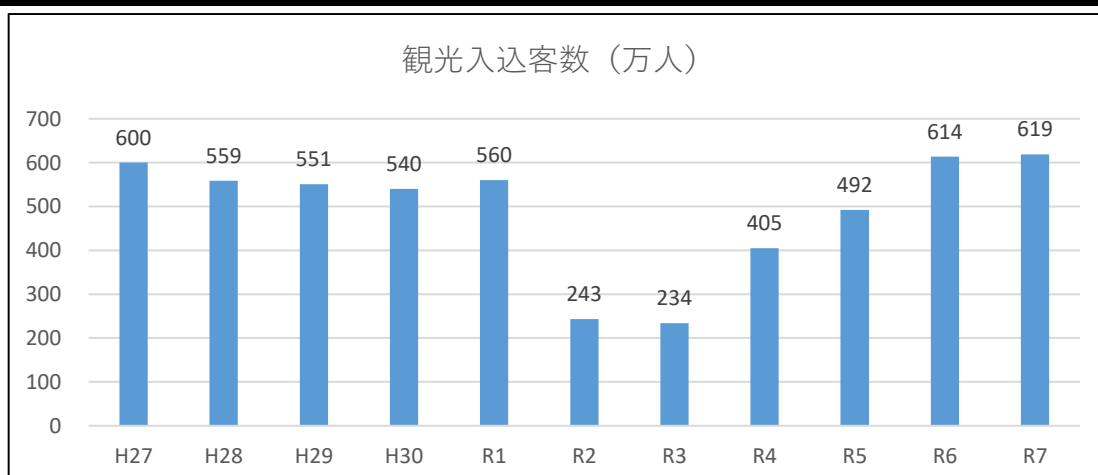
(数値目標)

数値目標	単位	基準値	達成状況					目標値
			R7	R8	R9	R10	R11	
観光客の宇治市満足度 (飲食・お土産・景観等) (※)	%	64.4~ 94.5 (R4年度)	59.1~ 95.0					全て85.0 以上 (R11年度)
観光客のリピーター割合 (※)	%	59.4 (R4年度)	57.2					70.0以上 (R11年度)

(※) 宇治市観光動向調査より

(評価・課題)

宇治市観光動向調査では、宇治茶や寺院・神社等の項目では満足度が高く目標値を達成したものの、交通状況や標識等の観光案内に対する満足度が低く目標値の達成には至らなかった。また、「トイレ・ゴミ箱について」の項目においても、満足度が低い結果であり、観光における環境整備を強化する必要がある。一方で、令和7年観光入込客数は、周遊観光促進施策や世界的な抹茶ブーム等により、全体では前年比約1%増の619万4千人、過去最高の入込客数となった。これまでの事業効果を検証しながら、継続・発展的に取組を進め、引き続き、さらなる宇治ブランドの向上を図る。



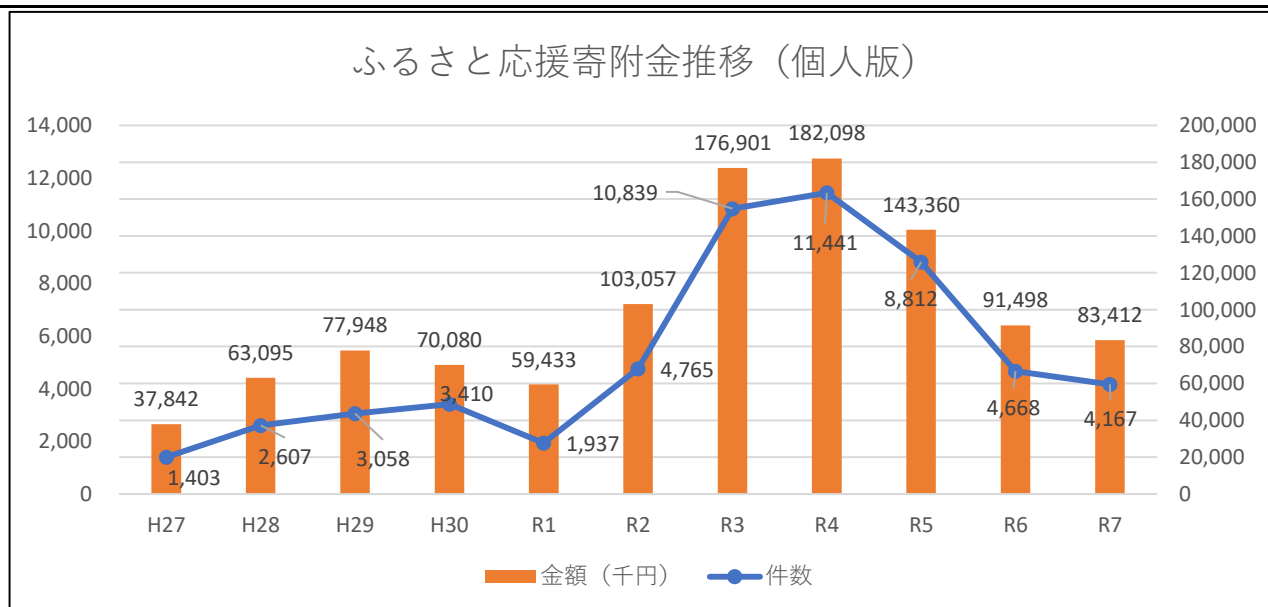
(具体的な施策)

①多様な主体と連携した魅力発信

重要業績評価指標 (KPI)		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
ふるさと応援寄附件数 (個人版)	件	8,812 (R5年度)	4,167					12,000 (R11年度)
SNS情報発信件数	件	3,310 (R5年度)	3,772					3,500 ↓ 5,000 (R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
ふるさと応援施策推進事業	個人版ふるさと応援寄附金において、寄附件数・金額ともに減少したものの、新たに8つのポータルサイトに掲載を開始したほか、市内での食事や体験等に利用できる電子商品券の利用店舗拡大等の取組を進め、市の魅力発信に努めた。
戦略的観光情報発信事業	国内でのプロモーション活動をはじめ、観光パンフレット及びマップ制作、観光大使や響け！ユーフォニアムとの連携等、様々なイベントを実施するとともに、観光情報の発信に取り組むことにより、宇治の認知度及び宇治への訪問意欲の向上を図った。

評価・課題
ふるさと応援施策推進事業では、新規返礼品開拓や体験型返礼品の充実、地域経済の活性化に向けて取組を進めたものの、基準値を大きく下回った。一方でSNSを活用した情報発信では様々な手法で、積極的な魅力発信に寄与できた。 引き続き、魅力発信の更なる強化に向けて、広報の充実を図るとともに、市民・事業者・団体・行政が連携し、具体的な取組を一層推進していく必要がある。



②豊富な観光資源の魅力の再発見

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
日本人1人あたりの 観光消費額（※）	円	6,291 (R4年度)	7,156					6,500以上 ↓ 7,900以上 (R11年度)
宇治茶（施設・店舗を含む）の満足度（※）	%	88.6 (R4年度)	91.2					90.0 ↓ 95.0 (R11年度)
源氏物語ミュージアム講座等参加者数	人	2,321 (R5年度)	2,129					2,500 ↓ 2,600 (R11年度)

（※）宇治市観光動向調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
高品質茶ブランド力強化事業	伝統ある宇治茶製法を継承しながら、品質の高い茶の生産を促進するため改植事業への助成や、市内産宇治茶の特徴の一つである手摘みを守るため、お茶摘みさんを積極的に確保するための事業を支援した。
お茶と宇治のまち歴史公園運営事業	茶摘みや抹茶づくり体験等、宇治ならではの体験を提供し、宇治の魅力に触れる体験型観光を推進した。また体験とセットで、宇治茶や宇治の歴史を体感できるミュージアムの運営により、一層宇治の魅力を発信することができた。
源氏物語ミュージアム特別企画展関連事業	大河ドラマで高まった『源氏物語』への興味・関心を一層「深める」ことを目指し、「紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクト」との連携事業として特別企画展を実施した。プロジェクトと連携した企画や当館で実施する計画的かつ効果的な広報活動を通じて、『源氏物語』の魅力を発信した。

評価・課題
宇治茶の伝統的栽培方法を継承しながら、生産を促進するため積極的に支援を行った。またお茶と宇治のまち歴史公園事業では、体験型コンテンツの提供および、お茶のミュージアムの運営により、宇治の魅力を発信できた。紫式部ゆかりのまちとして、源氏物語ミュージアム特別企画展を通して、『源氏物語』への興味・関心を一層「深める」ことができた。 引き続き、豊富な観光資源を活かし取組を進めていく必要がある。

③新たな観光資源の創出

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
「体験・アクティビティ」の満足度（※）	%	80.6 (R4年度)	73.8					85.0 (R11年度)
体験型川下り等のイベント開催数	回	1 (R5年度)	2					20 (累計) (R11年度)

（※）宇治市観光動向調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
天ヶ瀬ダムかわまちづくり推進事業	宇治川・天ヶ瀬ダム活性化協議会の開催により地域の合意形成及び民間事業者と行政の連携強化を図った。また、寄贈を受けた桜の苗木を、市民や地元事業者等と共に、植樹や記念プレート設置のイベントを実施することで、天ヶ瀬ダム周辺の景観美化とにぎわいづくりを進めた。
広域観光推進事業	淀川沿川の自治体および交通事業者と連携したイベントとして、宇治会場ではEボート体験と天ヶ瀬ダムツアーを行った。京都府内外の関連地域や交通事業者と連携した取組を実施することにより、広域への観光PRを実施できた。

課題・評価
天ヶ瀬ダムや宇治川を活用したイベントおよび各種取組を実施することで、観光コンテンツの新たな創出を図ることができたが、「体験・アクティビティ」の満足度は基準値を下回る結果となった。 引き続き、天ヶ瀬ダムや宇治川等の観光コンテンツを活かすとともに、体験型川下り等のイベント開催を通し、観光客の満足度を上げる必要がある。



<Eボート体験>



<さくらの植樹>

④観光客の受入環境整備

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
「観光施設、お店などのおもてなし」の満足度（※）	%	87.7 (R4年度)	81.8					90.0 (R11年度)
観光地の授乳室設置数	件	2 (R5年度)	2					3 (累計) (R3～R11年度)

（※）宇治市観光動向調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
観光インバウンド推進事業	外国人観光客の利便性や観光消費額の向上を図るため、世界中で利用されているGoogleマップにおいて、Googleビジネスプロフィール登録・活用サポートを実施するとともに、活用マニュアルの作成、配布を行い、旅マエ・旅ナカで有益な情報提供に努めた。
観光おもてなし推進事業	宇治観光の玄関口となる各駅前の観光案内所において、観光客の視点に立った案内業務に努め、おもてなし力の向上に努めた。

評価・課題
誰もが快適に安全安心に観光できるよう、各観光案内所での情報提供や、観光トイレの改修、旅マエ、旅ナカでの情報発信を実施したが、「観光施設、お店などの人たちのおもてなし」の満足度は目標値に届かなかった。 引き続き、観光客の受け入れ環境を整え快適に過ごせる観光地を目指す必要がある。

（２）『希望をかなえる子育て・子育てにやさしいまちづくり』

（基本的方向）

子育て世代の本市への移住・定住につなげていくためには、宇治の結婚・出産・子育てをしたいと思えるイメージの形成とそれらの実現に向けた支援及び環境づくりにより、住みたい、住み続けたいまちになることが必要である。

子育て世代の希望をかなえ、安心して子どもを産み育てられるまちをつくるため、地域で子育てを支える仕組みづくりや子どもたちが健やかに育つ環境づくりを推進するとともに、一人ひとりの学びを最大限に引き出す教育施策の充実・強化と学習環境の向上など、社会全体で子育てや子どもの育ちを支える包摂的なまちづくりを目指す。

（デジタルの力を活用した取組）

子育て施設（保育所・学校等）のICT化により、保護者の利便性向上と職場の業務負担軽減によるサービスの質の向上に取り組むとともに、デジタル社会の担い手として子どもたちに必要な資質・能力の育成を図る「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、取組を推進する。

（数値目標）

数値目標	単位	基準値	達成状況					目標値
			R7	R8	R9	R10	R11	
出生数	人	5,221 (R1～5年)	957					6,900 (累計) (R7～11年)
子育ての環境や支援への満足度（※）	%	19.9 (R5年度)	—					22.9 (R11年度)

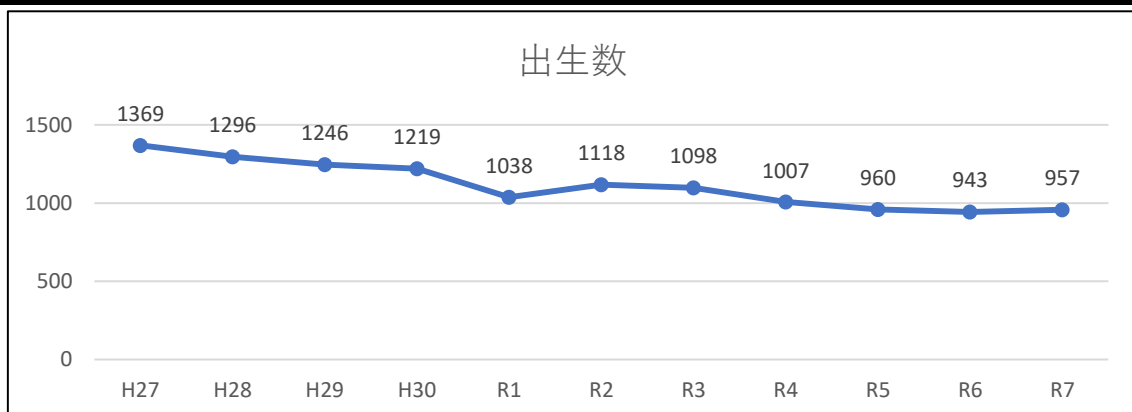
（※）宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

（評価・課題）

子育てにやさしいまちの実現に向け、妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援や、子育て世帯が安心して出かけられる環境整備などの取組を進めてきたことで、令和7年の出生数は前年と比較し14人増加した。

また、令和7年度の社会動態では、児童世代（0～17歳）、親世代（30～59歳）が増加していることから、子育て世帯に向けた施策については一定の効果が出ているものと推察しており、今後もニーズを把握し、効果的な取組を実施する必要がある。

引き続き、子育てを担う若い世代の就労支援や結婚・出産・子育て支援など、出生数や子育て環境の満足度増加につながる事業の実施とともに、宇治で結婚・出産・育児をしたいと思えるまちを目指し取組を推進する。



(具体的な施策)

①若い世代の就労支援

重要業績評価指標 (KPI)		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
20歳代後半から30歳代前半の就業率 (※)	%	69.1 (R2年)	—					75.0 (R7年)
会社説明会の来場者数	人	70 (R5年度)	101					70 ↓ 110 (R11年度)

(※) 国勢調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
企業立地等促進助成事業	市内への企業の立地を促進し、市内経済の活性化を図るため、市内に工場等の新設または増設した企業6社に対して操業支援助成金等を交付した。
中小企業人材確保支援事業	市内の製造業21社を集めて合同企業説明会を開催した。26名の求職者が来場し、1名の採用に繋がった。

評価・課題
就職活動の早期化や売り手市場の状況下で、対面式の合同企業説明会の来場者数が全国的に減少しているが、令和7年度における会社説明会の来場者数は目標値を達成することができた。 引き続き、会社説明会を実施し、働く場所としての市内事業者の認知度を高めるための情報発信の強化に取り組むとともに、働きやすい環境づくりを促進する必要がある。



②結婚・出産支援

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
乳幼児健康診査受診率	%	97.6 (R5年度)	97.0					100.0 (R11年度)
新生児訪問実施率	%	98.1 (R5年度)	99.0					100.0 (R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
乳幼児教育・保育推進事業	就学前施設、小学校、療育施設等の関係機関が連携・協働し、「研究・研修」「保幼小連携」「発達・子育て支援」の3つの機能に基づく取組の実施等により、教育・保育の質の向上及び人材育成並びに就学前施設等における施設類型を越えたネットワークの構築に向けて取り組むことができた。
妊娠・産後支援事業	妊娠、出産及び子育てに関する悩みを専門職が傾聴し、妊娠期から母親に寄り添った相談支援を行えるよう、「交流」形式を取り入れ、母親の孤立感の軽減・解消を図り、今まで以上に育児不安等の解消に向けた取組を推進した。

評価・課題
妊娠期から母親に寄り添った相談支援や交流の場を創出することで、母親の孤立感の軽減・解消を図ることができた。 引き続き、乳幼児健康診査率及び、新生児訪問実施率向上に向け、宇治で結婚・出産したいと思える環境づくりに取り組むとともに、妊娠期からの切れ目のない支援により、安心して出産できる支援を実施する必要がある。



<産後支援の様子>

③子育て環境の充実

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
保育所・認定こども園の待機児童数（国定義後） *各年4月1日時点	人	0 (R5年度)	0					0 (R11年度)
子育てをする上で気軽に相談できる人や場所がある（ある）割合（※）	%	就労前児童の保護者 90.8 小学生の保護者 85.6 (R5年度)	—					就労前児童の保護者 92.4 小学生の保護者 87.9 (R11年度)

（※）宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
地域子育て支援拠点事業	地域子育て支援拠点において、子育て世代が気軽に集い、相互に交流を図る場を提供するとともに、子育てについての相談及び情報の提供、講習などを実施し、多くの子育て世代に利用いただいた。
こども誰でも通園事業	就労要件を問わず時間単位等で柔軟に保育所等を利用できる環境を整備することで、こども同士の触れ合いや保護者以外の大人との関わり、保育施設での新しい遊びなど家庭だけでは得られない経験を提供できた。また、事業実施施設数を拡大することができたことから、利用者数も増加した。
産後ケア	妊婦面談及び訪問などを通して妊産婦の状態を把握することにより、必要な方への適切な支援に努めた。また、令和7年度は宿泊型・日帰り型において年間利用枠を拡充するとともに、里帰り先での利用料自己負担額の一部助成（宿泊型）を開始した。

評価・課題
子育て世代が安心して出産・育児をするには地域で楽しみながら子育てができる環境づくりが必要であり、子育て世代が相互に交流を図る場を提供するとともに、時間単位等で柔軟に保育所等を利用できる環境を整備した。 引き続き、子育ての不安を解消し、安心して子どもを産み育てることができるよう、待機児童0を維持するとともに、子育てに関する相談体制の充実や多様な保育ニーズに対応できる環境づくりに取り組む必要がある。

④学校教育の充実と学校環境整備

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
話し合い活動の定着割合 （※）「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」に肯定的に回答した児童・生徒の割合	%	小学生6年生 78.3 中学校3年生 76.4 (R5年度)	(小6) 80.3 (中3) 81.2					全国平均以上 (R11年度)
課題解決型学習の定着割合 （※）「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。」に肯定的に回答した児童生徒の割合	%	小学生6年生 63.2 中学校3年生 64.1 (R5年度)	(小6) 76.4 (中3) 67.2					全国平均以上 (R11年度)
中学校給食の実施	校	—	—					全校実施 (R8年度)

（※）全国学力・学習状況調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
宇治学推進事業	「宇治学」副読本及び指導の手引きを改訂し、内容の充実を図った。また、市立小学校22校に年2回抹茶を配付し、全ての3年生児童が宇治抹茶（お点前）体験を実施した。
給食センター整備事業	令和8年4月からの中学校給食提供開始に向けて、学校給食センターの工事完了に加え、給食配送車の調達、食器・トレイ及び備品等の購入などを行い、開設準備を着実に進めることができた。

評価・課題
宇治学の「宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶ」をコンセプトに、お点前体験等の宇治ならではの総合的な学習時間を実施することができた。また令和8年度より中学校給食を開始するため、学校給食センターの開設準備を進めることができた。 引き続き、学校教育の充実を図り、話し合い活動及び課題解決型学習の定着に努める必要がある。

⑤家庭・学校・地域の連携・協働促進

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
地域学校協働活動（放課後子ども教室を含む）の取組事業数	事業	137 (R5年度)	178					168 (R11年度)
 地域学校協働活動に係るボランティア登録者数	人	1,216 (R7年度)	1,216					1,300 (R11年度)
学校の授業時間以外の勉強時間が平均1日あたり30分に満たない子どもの割合（※）	%	小学生6年生 23.2 中学校3年生 21.4 (R5年度)	(小6) 25.2 (中3) 27.1					全国平均以下 (R11年度)

（※）全国学力・学習状況調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
放課後子ども教室支援事業	放課後及び土曜日の午前中に、地域住民等で構成される推進組織により、子どもに安全・安心な居場所を提供し、自主的な学習及びスポーツ・文化活動、地域住民との交流などの活動支援をした。
小・中学校ICT教育充実事業	GIGAスクール構想の第2期として、一人一台タブレット端末を更新し、児童生徒のICT環境の機能向上を進めることができた。

評価・課題
放課後や土曜日に地域住民との交流活動を通し、様々な人と人とのつながりを形成することができた。また、一人一台タブレット端末を更新するなど、ICT利活用環境整備を推進することができた。 引き続き、地域学校協働活動に係るボランティアと連携し、様々な地域・団体と交流できる場を創出するとともに、ICTを効果的に活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向け、環境整備と指導の充実を継続的に取り組む。

(3) 『住み続けたい「ふるさと宇治」の創生』

(基本的方向)

人口減少に歯止めをかけるためには、人口の流入とあわせて、人口の流出抑制を図ることが重要である。
市民の宇治への愛着の醸成を図るとともに、行政のみでなく市民自らが、地域のつながりを大切にし、様々な人々が共生する魅力あるふるさと宇治を築くことで、宇治に住み続けたい思いへとつなげ、定住の促進を図る。

(デジタルの力を活用した取組)

ICTの活用による効率化を促進し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、健康データ分析やウォーキングアプリを活用した健康づくり、多様な学びの機会提供などに取り組むことで、誰もが健康で元気に暮らせるまちづくりを推進する。

(数値目標)

数値目標	単位	基準値	達成状況					目標値
			R7	R8	R9	R10	R11	
市民の宇治への愛着度 (※)	%	69.0 (R5年度)	63.7					75.0 (R11年度)
社会増減数	人	▲63 (R5年)	▲89					0 (R11年)

(※) 第6期中期総合計画アンケートより

(評価・課題)

社会動態において、年単位では目標値に届かなかったが、年度単位で見ると15年度ぶりに転入超過へ転じた。世代別では、すべての児童世代(0～17歳)が増加したほか、子育て世代である30～59歳が転出超過から転入超過へと転換するなど、これまで取り組んできた施策の成果が一定現れていると考えられる。一方で、18～29歳の若年層世代は転出超過となっており、流出に歯止めをかけるためには、宇治への愛着の醸成が必要であるが、市民の愛着度は基準値より減少し、目標値は未達成となった。

引き続き、市民と行政がともにまちづくりに取り組み、地域コミュニティの活性化や多様な主体の共生社会づくり等、具体的な施策に定める事業を一層推進する。

令和7年度											
世代	0-5歳	6-11歳	12-17歳	18-23歳	24-29歳	30-34歳	35-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	その他
人数	150	49	78	▲ 34	▲ 346	50	34	48	36	▲ 3	▲ 6
児童(0～17歳)の合計											277

令和2年度～令和6年度(第2期創生総合戦略計画期間)の合計											
世代	0-5歳	6-11歳	12-17歳	18-23歳	24-29歳	30-34歳	35-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	計
人数	535	95	136	▲ 146	▲ 1,615	100	16	57	▲ 18	▲ 52	▲ 892
児童(0～17歳)の合計											766

※単年度と複数年度の表のため比較不可

(具体的な施策)

①地域コミュニティの活性化

重要業績評価指標 (KPI)		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
自主防災組織の組織率	%	76.2 (R5年度)	76.7					85.0 (R11年度)
地域コミュニティ活性化 意見交換会の実施	団体	152 (R5年度)	258					261 (累計) (R1～R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
自主防災組織育成事業	地域住民の防災意識の高揚を図るため、自主的に防災訓練を実施する町内会・自治会等に対して、補助金を交付することにより、地域防災力の向上を促進することができた。
まちの縁がわ促進事業	集会所と公園を一体的に利用することで、多様な主体との協働を促進するため、川西地域・川東地域のそれぞれにおいて、ワークショップ等で把握したニーズや施設活用アイデアによるモデル的な取組を実践した。多様な主体と協働することで、多世代が集い、つながる交流の場「まちの縁がわ」を創出することができた。
中宇治地域市民協働推進 拠点整備事業	整備方針を策定したことにより、今後の方針や手法を具体的に示すことができた。また、地域説明のほか、地域活動団体によるトライアル事業により、新たな拠点の整備に向けた機運醸成やニーズ把握をすることができた。

評価・課題
防災やまちづくり等の多様な視点から地域活動への関心を高める取組を進め、住民同士のつながりや地域の担い手育成を図った。町内会・自治会の加入率低下や担い手不足が課題となる中、多様な主体と協働することで、多世代が集い、つながる交流の場「まちの縁がわ」を促進した。 引き続き、主体的な地域活動を推進するとともに、持続可能な地域コミュニティの形成に取り組む必要がある。



<まちの縁がわ促進事業ワークショップの様子>



<トライアル事業の様子>

②多様な主体の共生社会づくり

重要業績評価指標（K P I）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
新たに立ち上げ支援した多様な居場所数	団体	2 (R5年度)	1					2 (R11年度)
各種審議会等における女性委員が占める割合	%	31.8 (R5年度)	33.6					40.0 (R11年度)
福祉施設利用者の一般就労への移行者数	人	22 (R5年度)	—					40 (R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
男女共同参画施策推進事業	女性のための相談会実施や、男性のための電話相談や女性問題アドバイザー派遣、各種セミナーの実施に加え、市民企画事業の実施などにより、男女の人権の確立と地域に根ざした男女共同参画社会の推進に努めた。
障害者訓練等給付事業	障害福祉サービスの支給決定を受けた障害者が、自立生活に必要な就労訓練等を行うことにより、日常生活または社会生活を営むことができるよう給付を行った。

評価・課題
性別や障害の有無に関係なく、平等に日常生活や社会生活を営むことができるよう、男女共同参画社会の推進および、障害者訓練等給付を実施した。 引き続き、多様な主体が活躍できるよう事業を進めるとともに、市民の活躍の機会や交流機会の創出に努める必要がある。

③健康づくりの推進

重要業績評価指標（K P I）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
健康づくり・食育アライアンス加入団体数	団体	97 (R5年度)	125					150 ↓ 160 (R11年度)
ウォーキングアプリ登録者数	人	—	1,602					3,000 (R11年度)
スポーツを通じて連携した大学、企業等の数	件	18 (R5年度)	19					20 (R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
健康アライアンス事業	「宇治まると健康づくり」の推進に向けて、「宇治市健康づくり・食育アライアンスU-CHA」の活動を通じて、市民の健康意欲の醸成及び健康行動の変容を図るとともに、加入団体相互の連携を目的とした交流支援を行った。
うじスマートウェルネス推進事業	健康データ分析に必要なデータを収集・分析し、運動習慣の動機づけや継続支援として健康アプリを導入することで、健康行動の定着を促進した。また、モデル地域として選定した槇島地域において、分析結果を踏まえた地域共催の健康イベントを開催した。
フライングディスクのまち宇治推進事業	宇治市内のスポーツ少年団、市内小学校を対象に講習会を実施し、競技の魅力と認知度の向上を図った。また、ワールドマスターズゲームズ開催記念宇治市長杯アルティメット競技宇治大会の開催や交流試合を実施するなど、ワールドマスターズゲームズ2027関西への機運醸成や宇治市内に広くフライングディスクを普及する環境を整え、スポーツ実施率の向上に努めた。

評価・課題
運動習慣の動機づけ・継続支援として健康アプリを導入し、健康行動の定着を促進することができた。また、フライングディスクのまち宇治としてワールドマスターズゲームズに向けて宇治大会を実施するなど、健康およびスポーツに係る取組を推進できた。 引き続き、スポーツを通じた地域の活性化や、健康づくりを中心とした地域活動を通じて、健康づくりを支援する必要がある。

(4) 『活力あふれる産業振興と多様な働く場の創出』

(基本的方向)

若年層の定住促進のためには、近隣での多様な働く場の創出が重要であり、市内産業への支援を実施することにより、市域内雇用の創出と拡充を促進するとともに、若者の雇用や起業に対する支援を行う必要がある。

市内産業が持続的に成長、発展するまちの実現に向け、市内産業の成長支援や事業者間の連携促進、新たな産業の創出に向けた起業支援などに取り組むことにより、市民や地域生活を支える地域経済の活性化を目指す。

(デジタルの力を活用した取組)

生産性・生産効率の向上のため、スマート農業の導入支援や先端設備導入等の設備投資への支援を実施することにより、地域経済の活性化を図る。

(数値目標)

数値目標	単位	基準値	達成状況					目標値
			R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	
市内事業所数 (※)	事業所	5,126 (R3年度)	—					5,126 (R11年度)
市内従業者数 (※)	人	54,266 (R3年度)	—					54,266 (R11年度)

(※) 経済センサスより

(評価・課題)

新たな産業の創出に向けて産業交流拠点「うじらぼ」を活用し、円滑な事業承継を進めるためセミナーや交流会の開催、市内事業者とともに子どもたちに社会とつながる体験を提供するなどの取組を推進することができた。

また、新たな工業用地の確保のため、国道24号沿道安田町地区の産業立地に向けた土地利用転換等の取組を推進できた。

引き続き、「宇治市産業戦略」に基づき、市内産業が持続的に成長、発展するまちの実現に向け、市内産業の成長支援や事業者間の連携促進、産業立地検討エリアである市道宇治槇島線沿道地区・市道宇治白川線沿道地区での産業立地の方向性や企業誘致について検討を進め、市民や地域生活を支える地域経済の活性化を目指す。

(具体的な施策)

①市内企業の成長支援

重要業績評価指標 (KPI)		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	
事業者支援数	社	165 (R5年度)	151					165 (R11年度)
市内産農産物等のPRイベント出店数	件	27 (R5年度)	31					30 (R11年度)
		83件 (R2～R6年度)						↓ 150 (累計) (R7～R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
中小企業展示会合同出展事業	「未来モノづくり国際EXPO2025」や「第38回機械要素技術展」への合同出展を通じて、宇治市および参加企業のPRや販路拡大支援を図ることができた。また、合同出展に参加した4社が協働してブースづくりやPR方法の検討に取り組むことで、企業間の新たなつながりを生むことができた。
農業情報発信事業	イベント出展などを通して市内産農産物を消費者に向けて情報発信するとともに、農業者と飲食業等とのマッチングの機会を設けることで、販路拡大や直売の取組につなげることができた。

評価・課題
展示会への合同出展を通じ、販路拡大や、企業間の新たなつながりを生むことができた。また市内の農産物をイベント出展することにより、宇治のPRおよび、異業種マッチングにも繋げることができた。 引き続き、宇治市における企業・創業、および市内企業の成長支援を推進する。



<農業者×事業者マッチング商談会>



<未来モノづくり国際EXPO2025>

②事業者間や産学等の交流・連携の強化

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
異業種交流会の開催	回	5 (R5年度)	10					5 (R11年度)
↓								
中小企業交流促進事業の参加者数	人	2,414 (累計) (R2～R7年度)	2,414					4,500 (累計) (R2～R11年度)
うじらば利用者数	人	2,663 (R5年度)	2,698					3,000 (R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
中小企業交流促進事業	セミナー及び交流会などの実施により、参加者間の交流・連携が強化された。また、創業支援醸成プログラムとして、新しい働き方発掘プロジェクト「スタプロ」を実施し、創業機運を高めることができた。
こども未来キャンパス事業	モノづくり体験や職業体験等を、地域と連携し実施することで、市内産業の理解を深めるとともに、地域全体で宇治市の将来を担う子どもたちを育む機運醸成を図ることができた。

評価・課題
新たな産業の創出や企業を支援するため、産業交流拠点「うじらば」を活用し、市内事業者の交流を促進する様々なイベントの開催や、子どもたちに社会とつながる体験を提供するなどの取組を推進した。 引き続き、異業種交流や産学交流により事業者・産学等のつながり、交流を促進し、新商品や新技術の開発、販路の拡大につながる様々なイノベーションの創出を図る。



<こども未来キャンパス>

③新たな産業の創出と産業基盤の整備

重要業績評価指標（K P I）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	
認定新規就農者累計数	経営体	15 (R5年度)	17					20 ↓ 21 (累計) (H26～ R11年度)
創業支援補助件数	件	10 (R5年度)	<u>12</u>					10 (R11年度) 
	件	83 (累計) (H29～ R7年度)	83					135 (累計) (H29～ R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
新規就農者確保事業	次世代を担う農業者となることを目指す者に対して、経営開始時の資金を交付し、経営開始時から早期の経営確立に向けた支援を2件行った。
中小企業創業支援事業	創業初期の経営安定化及び地域経済の活性化を目的とし、創業支援ネットワーク「宇治チャレンジスクエア」との連携により、新たに創業する者に対し、12件の創業支援を行った。

評価・課題
中小企業の人材確保に向けて、事業承継支援や合同企業説明会の開催による雇用創出の拡充や、次世代を担う新規就農者確保に向けて支援した。 引き続き、時代のニーズに合わせた多様な起業家の輩出による担い手の確保や企業誘致などによる新たな産業の創出に取り組む必要がある。

④人材確保と勤労者支援

重要業績評価指標（K P I）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	
製造業の情報発信数	回	121 (R5年度)	34					121 ↓ 150 (累計) (R7～R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
市内企業PR動画作成事業	求職者向けプロモーション動画の制作により、市内製造業の人材確保を支援できた。動画は各事業者のホームページや説明会などで活用されており、効果的な情報発信手段を確立できた。
中小企業情報発信事業	ものづくり体験や、工場見学を通し、子どもがものづくりに対する興味関心をもつきっかけを創出することができた。あわせて、市内製造業の魅力をPRすることで、顧客創出に繋げることができた。

評価・課題
市内製造業の人材確保を支援するため、市内企業PR動画を作成し、情報発信に努めることができた。また市内で気軽に体験できるワークショップや、工場見学を実施することにより、身近に製造業を体感する場を提供できた。 引き続き、市内事業者および求職者に向け、必要とされる情報発信を行い人材確保に努める必要がある。



< 市内企業PR動画 >

（５）『未来を拓く都市基盤の整備』

（基本的方向）

市外から通勤・通学、観光など様々な目的で本市を訪れる人（滞在人口）を増やし、地域経済の発展を支えるため魅力的な景観の保全や広域的な道路ネットワークの強化に取り組む。

また、市民生活の利便性や安全性の向上に向けた既存公共交通の維持や新たな移動ニーズへの対応、駅や周辺道路のバリアフリー化の推進など、未来の宇治の発展につながる都市基盤整備により、まちの活性化を図る。

（デジタルの力を活用した取組）

多様化する移動ニーズに対応し、移動手段の安全性や利便性を向上させるために、ICTの活用やMaaS※の考え方の導入など新たな技術やサービスについての調査研究を行うなど「次世代交通サービスの研究」を進める。

※MaaS（Mobility as a Service）

利用者がスムーズに移動できるよう、電車やバス、タクシーなどの様々な移動手段を一つのサービスとして結合し、スマートフォンやアプリを通じて必要な移動手段を簡単に選択・利用できる仕組みのこと。

（数値目標）

数値目標	単位	基準値	達成状況					目標値
			R7	R8	R9	R10	R11	
滞在人口率 平日14時の滞在人口÷夜間人口（国勢調査）	倍	0.86 (R5年)	—					0.93 (R11年)
昼夜間人口比率 昼間人口（国勢調査）÷夜間人口（国勢調査）	%	87.8 (R2年)	—					90.0 (R7年)

（評価・課題）

移動しやすい交通環境の充実のため、3つのモデル地域において、おでかけ支援実証運行の実施や、市内各所の道路のカラー塗装化等により、安全で安心なまちづくりを推進することができた、また、「近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本計画」に基づく駅周辺のまちづくりを着実に進めることができた。

引き続き、滞在人口・昼夜間人口比率の目標値達成に向け、魅力的な景観の保全や広域的な道路ネットワークの強化に取り組む必要がある。

(具体的な施策)

①地域の活性化につながる整備

重要業績評価指標 (K P I)		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
市道の拡幅整備の実施	箇所	—	1					7 (累計) (R7～R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
道路インフラ長寿命化事業	道路（舗装、小規模附属物）、橋梁、トンネル等の定期点検や、下庄大橋の修繕設計業務、養老橋や堂ノ元橋の修繕工事、大久保名木線で舗装の改修などを行うとともに長寿命化計画の改定を行った。
辺地整備事業	「辺地に係る公共的施設の総合整備計画」に基づき、笠取地区、炭山地区、二尾・池尾地区の道路において、幅員狭隘で通行が危険な箇所の道路改良を実施し、山間地における市民の生活環境の改善を図った。
近鉄小倉駅周辺地区整備事業	「近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本計画」に基づく、土地区画整理事業の事業認可に向けた事業計画の作成に必要となる関係機関協議や、測量作業を実施した。また、駅周辺のまちづくりとして、駅東西を「つなぐ」跨線自由通路の検討に必要となる測量作業についても、あわせて実施した。

評価・課題
道路改良や道路施設の長寿命化を図り、安全で安心なまちづくりおよび、市民の生活環境の改善を図ることができた。また、小倉地域における駅周辺のまちづくりを基本計画に基づき推進することができた。 引き続き、計画的・効率的な道路の整備や長寿命化に取り組み、地域の活性化につなげる必要がある。



< 養老橋（橋梁修繕工事） >



< 梅谷大平線 完成後 >

②移動しやすい交通環境の充実

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
市内鉄道乗客数	万人	2,440 (R4年度)	—					2,440 ↓ 2,578 (R11年度)
交通事故発生件数	件	223 (R5年度)	194					150 (R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
地域公共交通活性化事業	宇治市のりあい交通事業において、引き続き地域における公共交通の確保を支援するとともに、地域住民と協働し、利用促進に取り組んだ。また、イベントでの啓発、小学校でのバス乗り方教室の実施、お出かけマップの配布等を行い、公共交通の活性化を図った。
交通安全施設整備事業	通学路であることを明示する横断歩道のカラー化や、交差点の強調として交差点のカラー化を行い、歩行者等の安全を確保した。また、市内全域を対象として交通安全施設の設置を行うなど、歩行者等の安全確保を図った。
おでかけ支援	将来の市全体のまちづくりを見据え、病院・買い物など、生活に必要な施設等への外出機会の創出に向け、3つのモデル地域（大久保町平盛・旦棕地域、木幡南山地域）において実証運行を実施した。

評価・課題
宇治市のりあい交通事業の推進や、おでかけ支援による実証運行を通し、公共交通の確保支援および、市民の外出機会の創出を図ることができた。また、横断歩道や交差点のカラー化等で整備し、安全確保に努めることができた。 引き続き、移動しやすい安全な交通環境の充実を推進する。

③文化遺産・景観の保護

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
重要文化的景観に係る国の修理修景事業の実施件数	件	30 (R5年度)	32					42 (累計) (H24～ R11年度)
景観形成助成の件数	件	35 (R5年度)	39					47 (累計) (H22～ R11年度)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和7年度事業結果
文化的景観保護推進事業	景観の保全を図るため、重要な構成要素となっている建物の改修について所有者等と調整を行い、修理・修景事業として、旧菊屋萬碧楼 観瀾亭修理工事に補助を行った。また、重要構成要素の修理等実施することにより、宇治の文化的景観を保存し、宇治のまちづくりを進めることができた。
都市景観形成対策事業	景観重要建造物改修工事や地域の取組みである平等院表参道まちづくり協議会による平等院表参道のゴミ集積箱の更新に助成を行うなど、良好な景観の形成に寄与できた。

評価・課題
文化的景観の保護や、都市景観形成対策の取組を通し、宇治のまちづくりを進めることができた。 引き続き、歴史的な資産と一体となった魅力あふれる宇治のまちづくりを進めるとともに、良好な景観の形成に寄与する必要がある。



<都市景観形成対策 助成前>



<都市景観形成対策 助成後>

7. 国の地方創生関係交付金を活用した事業（令和7年度事業）

新しい地方経済・生活環境創生交付金（ソフト事業）

※補助率1/2

※端数処理（四捨五入）により、内訳が一致しないことがある

あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を ～みんなが主役の地域振興事業～（令和3年度～令和7年度）

（事業概要）

京都府全域において取り組んできた観光地域づくりのこれまでの成果を、産業振興・雇用創出なども含めた地域振興につなげるため、観光を入口とした圏域内の関係人口の創出拡大や、地域の活力づくりに取り組む。

（数値目標）

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R3	R4	R5	R6	R7	
観光客の宇治市満足度 （※1）（飲食・お土産・ 景観等）	%	55.0～93.0 (H28年度)	—	63.5～ 94.5	—	—	59.1～ 95.0	全て85.0 以上 (R11年度)
観光客のリピーター割合 （※1）	%	56.3 (H28年度)	—	59.4	—	—	57.2	70.0 (R11年度)
市民の宇治への愛着度 （※2）	%	73.2 (R1年度)	—	72.9	—	69.0	63.7	75.0 (R11年度)
市民の定住意向 （※2）	%	47.9 (R1年度)	—	46.3	—	50.8	66.9	70.0 (R6年度)

（※1）宇治市観光動向調査より

（※2）定住に関するアンケート調査及び第6期中期計画アンケート調査より

(主な事業)

事業名	補助対象事業費（実績） （千円）	財源内訳	
		交付金	その他
お茶の京都DMO協議会負担金	14,878	7,439	7,439
まちあるきガイドツアー事業費	118	59	59
「京の七夕 in Uji」事業費	12,000	6,000	6,000
各種大会事業補助金（宇治川マラソン大会分）	1,750	875	875
スポーツ振興基金活用事業費（宇治市交流分）	774	387	387
ワールドマスタースゲームズ2027関西推進事業費	3,412	1,706	1,706
観光活性化事業補助金（鶴飼分）	1,000	500	500
放ち鶴飼事業補助金	3,300	1,650	1,650
茶・茶園品評会出品奨励費	5,939	2,969	2,970
高品質茶ブランド力強化事業費	4,802	2,401	2,401
自主防災組織育成事業補助金	674	337	337
地域のつながり促進事業費	3,380	1,690	1,690
まちの縁がわ促進事業費	628	314	314
地域安全・安心見守り事業費	299	149	150
地域福祉活動応援事業費	1,420	710	710
地域ボランティア等担い手育成事業費	1,000	500	500
障害者文化芸術活動振興事業費	1,353	677	676
山間地域移動支援事業費	300	150	150
高齢者免許返納支援事業費	900	450	450
高齢者買物移動支援事業費	185	93	92
働きやすい農業支援事業費	3,066	1,533	1,533
農業用施設等導入チャレンジ事業費	1,150	575	575
空き家対策事業費	102	51	51
空き家利活用推進事業費	2,235	1,118	1,117
合計	64,665	32,333	32,332

(評価・課題)

宇治茶や鶴飼など宇治の伝統ある資源の活用や新たな都市整備による観光資源の創出に取り組むとともに、市内への移住・定住の促進に向け、空き家の利活用に対する補助を行った。また、地域活動への支援を行い、住みよいまちの実現に向けて取組を推進することができた。

引き続き、宇治の魅力を広く発信するとともに、地域の活性化に向けた取組を進める必要がある。

「子育て、子育てにやさしい」京都創生プロジェクト事業（令和４～７年度）

（事業概要）

子育て世代の外出支援とタイアップした商店街の活性化支援や、課題である子どもの外遊び環境へアプローチする体験・交流の場の創出、子育て世代の仕事づくり等の拠点群を集中的に形成するとともに、地元の住民・企業と協働し、地域全体で子どもを見守り、子育てを支援する体制整備により、子育てにやさしいまちづくりを進める。

（数値目標）

重要業績評価指標（K P I）		基準値	達成状況				目標値
指標	単位		R4	R5	R6	R7	
出生数	人	6,514 (H26～30年)	3,223 (R2～4年)	4,183 (R2～5年)	5,126 (R2～6年)	6,083 (R2～7年)	7,500 (累計) (R2～6年)
子育てしやすい環境や支援への満足度（※）	%	22.9 (H30年度)	—	19.9	—	—	22.9 (R11年度)

（※）子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

（主な事業）

事業名	補助対象事業費（実績） （千円）	財源内訳	
		交付金	その他
子育ておうえん環境整備事業費	1,907	953	954
空き家活用促進まちづくり支援事業費	1,947	974	973
こども未来キャンパス事業費	13,905	6,952	6,953
宇治茶ふれあい事業費	741	370	371
地域のつながり促進事業費	6,957	3,479	3,478
公園でつながり子育てにやさしいまち創出事業費	5,502	2,751	2,751
つなげる・ひろがるスポーツ振興事業費	3,009	1,505	1,504
未来をつくる食育推進事業費	918	459	459
子育ておうえん環境整備事業費（ハード整備分）	3,800	1,900	1,900
公園でつながり子育てにやさしいまち創出事業費（ハード整備分）	297	148	149
合計	38,983	19,491	19,492

（評価・課題）

子育て世代が外出しやすい環境を整備するため、地域の店舗等における授乳室等の施設整備や、子育て世代を対象としたイベントなどに対して補助を行うとともに、安心して遊べる公園整備と親子を対象とした体操教室等のイベントの実施など、子育てしやすい環境整備を推進することができた。

引き続き、地域で子どもを見守り、子育てを支援する体制を整備し、子育てにやさしいまちの実現に向けて取り組む必要がある。

文化庁京都移転を契機とした京都からの文化創造・発信事業（令和５～７年度）

（事業概要）

文化庁京都移転や大阪・関西万博の開催等、国内外から注目が集まる機会が続く中、伝統と最先端の文化が共存する多様性と寛容性のある文化を土台として、多様な魅力の向上による観光誘客、うるおいや活力があり、豊かさを感じられる社会の実現、地域文化の担い手の増加に取り組むことで、文化の力でにぎわいのある地域づくりを目指す。

（数値目標）

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況			目標値
指標	単位		R5	R6	R7	
市民の宇治への愛着度 （※）	%	69.0 (R5年度)	—	69.0	63.7	75.0 (R11年度)
文化芸術振興基本計画策定		— (R1)	令和3年度策定済み			策定 (R3)

（※）第６期中期総合計画アンケートより

（主な事業）

事業名	補助対象事業費（実績） （千円）	財源内訳	
		交付金	その他
文化の都・京都プロジェクトin宇治事業費	1,497	749	748
文化祭開催事業費	2,110	1,055	1,055
少年少女合唱団活動事業費	1,976	989	987
市民交流ロビーコンサート事業費	138	69	69
文化芸術活動動画配信事業費	23	11	12
高校生文化芸術祭典事業費	2,700	1,350	1,350
つむぐみらい文化芸術活動支援事業費	634	317	317
紫式部文学賞	8,801	4,400	4,401
宇治十帖スタンプラリー開催費	8,987	4,494	4,493
宇治田楽まつり開催負担金	3,000	1,500	1,500
五感で楽しむ古の文化講座開催費	483	241	242
紫式部のまち魅力発信プロモーション事業費（むらさきみどり分）	4,769	2,384	2,385
合計	35,118	17,559	17,559

（評価・課題）

文化芸術振興の基盤づくりのため、市民の自主的かつ創造的な文化芸術活動に対して補助を行うとともに、若い世代の発表の機会や交流の場を提供することで、次世代の文化芸術の担い手の育成に向け、取組を推進することができた。

引き続き、文化芸術に触れる機会の創出と次世代の担い手の育成に向け、取組を進める必要がある。

宇治市・大津市間における平安文化観光推進事業（令和５～７年度）

（事業概要）

宇治市及び大津市両市において大河ドラマ「光る君へ」の放映や、大阪・関西万博の開催などを契機とし、平安文化をテーマとした広域的な観光事業を展開することで、まちの魅力を発信し、国内外からの観光客をはじめとした様々な目的で両市を訪れる人を増やし、地域事業者の収益の向上や新たな雇用の創出などにより地域経済の活性化を目指す。

（数値目標）

重要業績評価指標（K P I）		基準値	達成状況			目標値
指標	単位		R5	R6	R7	
宇治市へ訪れた観光客の飲食店利用（※）	%	81.0 (R4年度)	—	—	74.0	85.0 (R11年度)
京都を訪れた観光客の宇治市への来訪率（※）	%	42.0 (R4年度)	—	—	20.0	60.0 (R11年度)

（※）宇治市観光動向調査より

（主な事業）

事業名	補助対象事業費（実績） （千円）	財源内訳	
		交付金	その他
紫式部のまち魅力発信プロモーション事業費（秘書広報課）	2,024	1,012	1,012
紫式部のまち魅力発信プロモーション事業費（観光振興課）	34,936	17,468	17,468
源氏物語ミュージアム広報活動費	1,528	764	764
源氏物語ミュージアム特別企画展費	1,081	540	541
青少年育成費（百人一首大会分）	124	62	62
源氏物語ミュージアム講座等開催費	2,696	1,348	1,348
合計	42,389	21,194	21,195

（評価・課題）

大津市と連携した平安文化観光ルートの形成による話題性の創出やPR力の強化を図り、京都観光を目的とする来訪者への認知度向上に向けた取組を推進した。

引き続き、認知度の向上に取り組むとともに、観光統計データの活用による市場ニーズに応じた事業の見直しを行い、観光消費額の増加に向けて取組を進める必要がある。

アートを核とした回遊性の創出による賑わいづくりと移住促進事業（R7～R9年度）

（事業概要）

京都府全域の多様な文化芸術を核として、地域の魅力を再発見・発信し、巡り歩く回遊性を創出する。アートイベント、地域資源を活かした文化体験の場づくりを通じて、交流人口・関係人口の拡大を図るとともに、こうした賑わいづくりを地域の活力向上や将来的な移住・定住の促進につなげ、文化芸術の力で選ばれる地域づくりを目指す。

（数値目標）

重要業績評価指標（K P I）		基準値	達成状況			目標値
指標	単位		R7	R8	R9	
観光客の宇治市満足度 （飲食・お土産・景観等）（※1）	%	64.4～ 94.5 (R4年度)	59.1～ 95.0			全て85.0 以上 (R11年度)
SNS情報発信数	件	3,310 (R5年度)	3,772			5,000 (R11年度)
市内鉄道駅乗客数	万人	2,440 (R4年度)	—			2,578 (R11年度)

（※1）宇治市観光動向調査より

（主な事業）

事業名	補助対象事業費（実績） （千円）	財源内訳	
		交付金	その他
観光インバウンド推進事業費	9,000	4,500	4,500
地域公共交通活性化事業費	3,341	1,671	1,670
合計	12,341	6,171	6,170

（評価・課題）

多様な歴史・文化・芸術を活かした宇治ならではの各種イベントを通し、市内市外問わず宇治市の魅力発信及び賑わいづくりの取組を推進した。

引き続き、アートを核として関係人口の拡大を図り、将来的な移住・定住につながる取組を進める必要がある。

「Kyoto Kougei Product」世界市場展開推進事業（R7～R9年度）

（事業概要）

伝統産業専門の支援拠点「Kyo-Densan-Biz」を核として、世界市場にチャレンジする事業者の拡大を図る。京都の伝統産業事業者における経営者マインドの醸成を図るとともに、ブランディングやマーケット分析、マーケットニーズに応じた商品開発に係る支援を充実させ、世界へ挑戦する地力のある事業者の育成に取り組み、担い手の確保と伝統産業の持続的発展を後押しし、地域経済の活性化を図る。

（数値目標）

重要業績評価指標（K P I）		基準値	達成状況			目標値
指標	単位		R7	R8	R9	
事業者支援数	社	165 (R5年度)	151			165 (R11年度)
製造業の情報発信数	回	121 (R5年度)	34			150 (累計) (R11年度)

（主な事業）

事業名	補助対象事業費（実績） （千円）	財源内訳	
		交付金	その他
中小企業展示会合同出展事業費	8,619	4,309	4,310
合計	8,619	4,309	4,310

（評価・課題）

モノづくり展示会への合同出展による企業間のつながりの創出や、市内事業者のPR動画作成支援などを通し、活力あふれる産業振興に寄与することができた。

引き続き、市内企業の育成・創業を支援し、世界へ挑戦する地力のある事業者を後押しするとともに、担い手の確保と伝統産業の持続的発展を目指す。

「まるっと京都」周遊観光プレミアム化促進事業（R7～R9年度）

（事業概要）

文化庁京都移転や大阪・関西万博の開催等により国内外から注目が集まる好機を捉え、京都市域から府内各地（海の京都・森の京都・お茶の京都、竹の里等）まで、京都全体を「まるっと」巡る周遊観光を促進する。観光の高付加価値化（プレミアム化）を進めることで、府内全域への誘客と観光消費の拡大を図り、地域全体の賑わいと活力づくりにつなげる。

（数値目標）

重要業績評価指標（K P I）		基準値	達成状況			目標値
指標	単位		R7	R8	R9	
日本人1人あたりの観光消費額（※1）	円	6,291 (R4年度)	7,156			7,900以上 (R11年度)
宇治茶（施設・店舗を含む）の満足度（※1）	%	88.6 (R4年度)	91.2			95.0 (R11年度)

（※1）宇治市観光動向調査より

（主な事業）

事業名	補助対象事業費（実績） （千円）	財源内訳	
		交付金	その他
お茶の京都DMO協議会負担金	4,000	2,000	2,000
広域観光推進事業費	2,997	1,499	1,498
戦略的観光情報発信事業費（周遊観光促進分）	6,215	3,108	3,107
合計	13,212	6,607	6,605

（評価・課題）

雑誌、WEB、ポスター、デジタルサイネージ等様々な媒体を活用し、宇治の様々なエリアの魅力発信を行うことで、周遊観光を促進することができた。また、お茶の京都エリアと連携し、周遊観光促進および宇治茶の魅力発信の取組を推進した。引き続き、広域的な連携を通し、宇治の魅力、京都の魅力を発信し、地域全体の賑わいにつなげる。

新しい地方経済・生活環境創生交付金（拠点整備事業）

※補助率1/2

※端数処理（四捨五入）により、内訳が一致しないことがある

宇治川・天ヶ瀬ダムかわまちづくり事業（R7～R11年度）

（事業概要）

宇治川の豊かな自然と重層的な歴史を活かし、「にぎわいづくり」と「安全・安心なまちづくり」をコンセプトに、天ヶ瀬ダム周辺を新たな観光資源として創出する。ダム直下広場などの整備とあわせ、民間によるEポート・ダムツアーなどの体験型ツーリズムの提供を通して、「かわ」と「まち」の賑わいを生み出し、広域観光の推進や関係人口の拡大により、地域の活力づくりに取り組む。

（数値目標）

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況					目標値
指標	単位		R7	R8	R9	R10	R11	
「体験・アクティビティ」の満足度（※）	%	80.6 (R4年度)	73.8					85.0 (R11年度)
体験型川下り等のイベント回数	回	1 (R5年度)	2					20 (累計) (R11年度)

（※）宇治市観光動向調査より

（主な事業）

事業名	補助対象事業費（実績） （千円）	財源内訳	
		交付金	その他
天ヶ瀬ダムかわまちづくり推進事業費	16,233	8,117	8,116
合計	16,233	8,117	8,116

（評価・課題）

宇治川・天ヶ瀬ダム活性化協議会の開催により、天ヶ瀬ダムツアーやかわまちづくり計画に基づくダム周辺の活性化等について検討を深めることができた。引き続き、天ヶ瀬ダム周辺地区と宇治橋周辺地区を一体とした「かわ」と「まち」の賑わいづくりや河川空間の活用方法を検討するとともに（仮称）天ヶ瀬ダムかわまちづくり広場などの拠点整備に向けて取り組む。

新しい地方経済・生活環境創生交付金（デジタル実装タイプ）

※補助率1/2

※端数処理（四捨五入）により、内訳が一致しないことがある

デジタル実装事業（単年度）

（事業概要）

デジタル技術の活用が地方の社会課題解決や地域の魅力向上に寄与する中、地域の実情に応じた優良なデジタルサービス・モデルを実装し、住民サービスの向上や行政・地域の生産性向上、業務の効率化に取り組む。地域のデジタル基盤を強化することで、利便性が高く持続可能な地域社会の形成と、デジタルの力を土台としたにぎわいのある地域づくりを目指す。

（数値目標）

重要業績評価指標（K P I）		基準値	達成状況	目標値
指標	単位		R7	
キャッシュレス決済窓口の箇所数	箇所	—	8	8 (R7年度)
R P A 開発bot数	個	—	6	6 (R7年度)

（※）デジタル実装タイプは個別にK P I を設定

（主な事業）

事業名	補助対象事業費（実績） （千円）	財源内訳	
		交付金	その他
キャッシュレス決済推進事業費	11,040	5,520	5,520
AI・RPA活用事業費	12,199	6,099	6,100
合計	23,239	11,619	11,620

（評価・課題）

デジタル技術を活用した、キャッシュレス決済の拡充、住民サービスの効率化を図り、満足度をあげるとともに、デジタル基盤の強化を図った。

引き続き、デジタル技術を活かし、利便性が高く持続可能な地域社会の形成に取り組む必要がある。

8. 重要業績評価指標（KPI）目標値修正一覧

①指標変更

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況 R 7	目標値	掲載 ページ
指標	単位				
地域学校協働活動（放課後子ども教室を含む）の取組事業数	事業	137 (R5年度)	178	168 (R11年度)	17
↓ 地域学校協働活動に係るボランティア登録者数	人	1,216 (R7年度)	1,216	1,300 (R11年度)	

（修正理由）

令和4年度に全小・中学校でコミュニティ・スクールを実施し、これまで各校の取組事業数を指標としてきたが、取組の定着状況を踏まえ、今後は活動を支える地域人材の広がりや活動の持続性を測る観点から、地域学校協働活動に係るボランティア登録者数に指標を変更する。

重要業績評価指標（KPI）		基準値	達成状況 R 7	目標値	掲載 ページ
指標	単位				
異業種交流会の開催	回	5 (R5年度)	10	5 (R11年度)	24
↓ 中小企業交流促進事業の参加者数	人	2,414 (累計) (R2～R7年度)	2,414	4,500 (累計) (R2～R11年度)	

（修正理由）

事業者間の交流・連携の一層の推進を図るため、より幅広い視点から、中小企業交流促進事業（異業種交流・スタートアップ支援・後継ぎ支援などのセミナー・交流会）における参加人数に指標を修正した。

②当初目標値達成

当初目標値を達成したため、目標値の上方修正を行った。

重要業績評価指標（KPI）		基準値	当初目標値	達成時の (達成年度)	修正後 目標値	掲載 ページ
指標	単位					
会社説明会の来場者数	人	70 (R5年度)	70 (R11年度)	101 (R7年度)	110 (R11年度)	13
市内産農産物等のPRイベント出店数	件	27 (R5年度)	30 (R11年度)	31 (R7年度)	150（累計） (R7～R11年度)	23
創業支援補助件数	件	10 (R5年度)	10 (R11年度)	12 (R7年度)	135（累計） (H29～R11年度)	25

③関連計画の目標値反映

関連計画に応じて、目標値の修正を行った。

重要業績評価指標（KPI）		基準値	当初目標値	修正時の実績値	修正後目標値	掲載ページ
指標	単位					
観光客の宇治市満足度 （飲食・お土産・景観等）	%	64.4～94.5 (R4年度)	85.0～95.0 (R11年度)	59.1～95.0 (R7年度)	全て85.0以上 (R11年度)	7
SNS情報発信件数	件	3310 (R5年度)	3,500 (R11年度)	3,772 (R7年度)	5,000 (R11年度)	8
日本人1人あたりの 観光消費額	円	6,291 (R4年度)	6,500 (R11年度)	7,156 (R7年度)	7900以上 (R11年度)	9
宇治茶（施設・店舗を含む）の満足度	%	88.6 (R4年度)	90.0 (R11年度)	91.2 (R7年度)	95.0 (R11年度)	9
源氏物語ミュージアム講座 等参加者数	人	2,321 (R5年度)	2,500 (R11年度)	2,129 (R7年度)	2600 (R11年度)	9
健康づくり・食育アライア ンス加入団体数	団体	97 (R5年度)	150 (R11年度)	125 (R7年度)	160 (R11年度)	21
認定新規就農者累計数	経営 体	15 (R5年度)	20 (R11年度)	17 (R7年度)	21（累計） (H26～R11年度)	25
製造業の情報発信数	回	121 (R5年度)	121（累計） (R7～R11年度)	34 (R7年度)	150（累計） (R7～R11年度)	26
市内鉄道乗客数	万人	2,440 (R4年度)	2,440 (R11年度)	— (R7年度)	2,578 (R11年度)	29